

LPのアレゼント

ボストンで渡辺貞夫一家と楽しい日々を過ごしたあとのニューヨークの宿に、真つ先に訪ねて来たドラム奏者ティン・ベイリーのお話をもつ少し続けよう。

日本公演を終えて、岡崎の

▽⑬△



僕の家に来て来たベイリーは、部屋中いっぱいレコードに、いざがあきれ顔だったが、それならと思ったのかもしれないね。バッグから持参した自身リーダーのLPを取り出して「わが友ドクターへ」とサインしてくれた。ちなみに、ベイリーは六〇年か

ら六一年にかけて、集中的に五枚のリーダーアルバムを出している。うち三枚はエビックから、あとの二枚は「ジャズタイム」と「ジャズライオン」という会社からで、この二つのマイナーレーベルこそ、ミュージシャン仲間の信望厚かったベイリーの手によって設立されたものだった。

それから十数年後、日本のジャズレコード界に、「幻の名盤発掘ブーム」がわきおこった時、ベイリーの製作した作品も希少盤扱いで発売されることになる。

余談めくけれど、そうしてよやくと目を見た、ちよつぱり通向きのベイリーの五枚のリーダーアルバムのうち三枚まで、僕が解説を担当したんだから、浅からぬ縁と言えるかもしれないね。

約束通り案内役

お話をもととして、その夜岡崎の僕の家泊まったベイリーは、アメリカに帰ってから「シェリーマリガン・カルテット」の一員として来日した

をよこした。その希望がかなったのは、当時人気抜群の

ベイリーに日本人の恋人？ 米で再会、ラブレター見る

六四年七月だった。そしてその二カ月後に、「ニューヨークにドクターが来たら、絶対おれが案内役になるからね」という約束通り、ホテルを訪ねて来てくれた。——とまあ僕は思ったんだけどね。



ティン・ベイリーが、ドクター内田にプレゼントしたサイン入りのレコード

ちかねたのも道理という訳だ。それにしても日本の女性分出てるんだろ。近いうちに、おれに一番合ってるジャズ

イングするジャズを聴かせたいよ。夜をつくるから、今夜のこのはまかせないよ。

そうかなあ。トリスターン一派って、僕には種類の強力なスイング感があるように思えるけどなあ。せつかくだから、ひと晩くらいはジャズに縁のないのもよしとするか。

昼は飛行学校教官

「ところでね、ドクター。

昼間は飛行学校で教官してるんだ。よかったらあす空からニューヨークを案内してあげようか。すばらしく快適だぜ」。そうか、彼、工学部出身だから、そっちも本職だったんだ。でもやっぱりおっかないからやめとこ。

そんなベイリーだったけど、数日後、彼のおかげで、とっても貴重な思い出をつくらせてもらったことになるんだね

(内田 修)

「サンビーム」のオープンカーの助手席に招き入れると、彼は一通の手紙を僕に手渡した。ちよつと照れたような表情で、「これ東京のガールフレンドからなんだ。訳してくれないか」。なーんだ、僕がボストンから帰るのを待

「ベイリーさん」お礼にスベイン料理を「ちよつしよう」といって、「ちよつと待ってよ。それもありがたいけれど、今夜は「ハーフト」でし。トリスターノを聴くつもりでいるんだよ」。肩をすくめて、「あの手の音楽、むつかえ。